

演題名：当院における5S活動について

～部署横断的な業務に対する活動についての一考察～

発表者：伊藤 正一（総務部総務課）

共同演者：岸下結花、鈴木実枝、内田順子、浜中義男、曲山好雄、森松静、進藤晃

抄録：

【前提】当院では、QC活動の一つである5S活動を継続して行ってきたが、どうしても単一部署内での活動に留まり、部署横断的な業務に対する整理が難しかった。

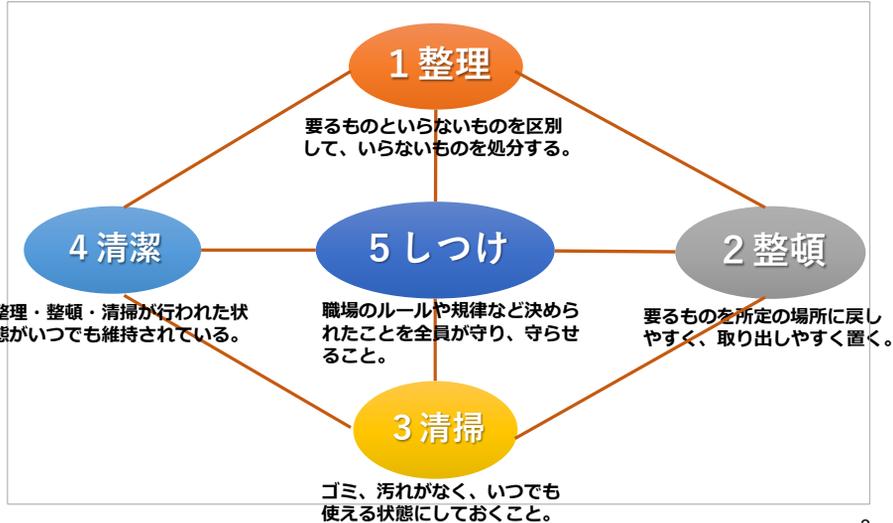
【取り組み】衛生材料を中心とした物品等の物流や管理方法を見直す機会があり、総務部（管理課および総務課）のスタッフがリーダーシップをとり、各部署および委員会とも協働して業務整理を行った。

【結果】院内で使用する衛生材料および物品について、採用している品目毎に過去の使用量等を分析し、採用品目の整理やそれぞれの品目の在庫量や発注量を整理することによって、管理を見える化し、また他部署と協働して行うことによって同時に共有することができた。

【考察】部署横断的な業務に対する改善活動は、関係部署の関係性等から円滑に推進していくことが困難な場合も多いが、今回の様に、事務に携わるスタッフが全体を俯瞰して、かつリーダーシップを発揮して進めていくことが有効と考えられた。

5S活動とは？

単に整理整頓や清掃をすることではなく、
職場の抱える課題を解決するための改善活動のこと。



3

今回の取り組み①

〔衛生材料等の管理について〕



◆在庫管理等：薬剤科

◆従来の主な流れ（病棟の場合）：

① 各病棟にて、払い出し伝票を作成し薬剤科へ提出（毎週月・木曜日）

② その日のうちに薬剤科にて在庫準備を行う

※在庫がないものは発注する

③ 翌日、各病棟のスタッフが準備された物品を取りに来る

※発注した品物が入庫した際は、都度、その部署へ連絡し、取りに来てもらう

4

今回の取り組み② 現状把握

◆表出された問題点（聞き取りより）：

（薬剤科）

- ・人材不足で、衛生材料の管理まで負えない
- ・在庫をなるべく置かないという方針から、バラで払い出す品目も多く、その分払い出し回数が増えている
- ・採用品目数が増加しており、スペースが足りない
- ・デッドストックもあるが、その品目が採用中止になったなどの情報がこない など

（病棟）

- ・在庫がない場合も多く、入荷毎に取りに行くことにより、スタッフが病棟から離れることにより、病棟業務が妨げられる
- ・病棟にも在庫を置くスペースが足りない
- ・使わなくなった品目がそのままになっている など

5

今回の取り組み③ 現状把握

◆ 採用品目、使用量、サイクル等の把握および分析

The table displays a comprehensive list of procurement items and their usage performance. The columns include item names, specifications, and usage data. Two prominent red callouts are present: '採用品目・包装単位など' (Procurement items, packaging units, etc.) on the left side, and '使用量実績' (Usage performance) in the center, both highlighting specific areas of the data.

6

今回の取り組み④ 要因解析

◆問題点

- ①薬剤科での管理の限界
→ 他部署での管理 → 総務課で担当
- ②病棟ごとに採用している品目に差異がある
→ 採用品目、包装単位等の見直し
- ③病棟ごとに在庫数に差異がある
→ 在庫数、発注ラインの見極め
- ④デッドストックの品目がそのままになっている。
→ 利用の促進や廃棄も含めた回収
- ⑤薬剤科、病棟ともにスペースが少ない
→ 在庫スペースの確保

7

今回の取り組み⑤ 対策の立案 I

◆問題点と改善方法

- ①薬剤科での管理の限界
→ 他部署での管理 → 総務課で担当 **業務の整理**
- ②病棟ごとに採用している品目に差異がある
→ 採用品目、包装単位等の見直し → 115品目を83品目へ
- ③病棟ごとに在庫数に差異がある
→ 在庫数、発注ラインの見極め → 在庫数等の設定、見える化
- ④デッドストックの品目がそのままになっている。
→ 利用の促進や廃棄も含めた回収 → 回収箱の設置 **整理**
- ⑤薬剤科、病棟ともにスペースが少ない
→ 在庫スペースの確保 → 病棟内に物品庫に設置

8

今回の取り組み⑥ 対策の実施Ⅱ

物品庫に設置した デッドストック品用回収箱



結果、空きスペースができた病棟内の棚

結果・考察

- ◆衛生材料に関する業務が見える化し、また出庫等も円滑に行えるようになった。
- ◆病棟スタッフが病棟を離れる時間を軽減することができ、薬剤科スタッフも調剤に専念することができるようになった。
- ◆単部署や現場部署だけでは限界がある部署横断的な業務（今回は衛生材料の管理）について、事務スタッフも含めた多職種による5S活動（うち整理、整頓の2Sのみ）を展開することで、業務の改善を図ることができた。
- ◆事務スタッフが全体を俯瞰して分析等を行い、その根拠を提示することが重要であり、他部署の会議体などにも積極的に参加し、自らがリーダーシップを発揮して進めていくことが有効である。